

公益社団法人民間総合調停センター 御中

和解あっせん・仲裁申立書

申立年月日：平成 年 月 日

申立人	住所 〒***-**** 大阪府大阪市〇丁目〇番〇号 (電話 **-****-****) (会社名・代表者名) 大阪 花子 印 (生年月日) 昭和**年**月**日 (**歳)
申立人	住所 〒 (電話) (会社名・代表者名) 印 (生年月日) 年 月 日 (歳)
代理人	住所 〒 (電話) 代理人 印
相手方	住所 〒***-**** 大阪府大阪市〇丁目〇番〇号 (電話 **-****-****) (会社名・代表者名) 大阪 一郎 印 (生年月日) 昭和**年**月**日 (**歳)
相手方	住所 〒 (電話) (会社名・代表者名) 印 (生年月日) 年 月 日 (歳)

※ボールペンまたは万年筆で記入して下さい。

※本申立書は相手方に送付します。

第1. 申立の趣旨 （相手方に求める結論を記載して下さい。）
申立人は、相手方との間で、被相続人Aの遺産分割を行う との 和解あっせん・仲裁判断（どちらかを○で囲んでください） を貴センター規則に基づいて求める。
第2. 申立の理由 （紛争の概要と申立を根拠づける理由を記載して下さい。）
1 申立人は相手方の妹である。同人らの父は、平成20年9月11日、病気により死亡した。相続人は、申立人と相手方の2人である。
2 被相続人は生前、相手方と同居していたため、遺産については相手方が詳細を把握している。特に、被相続人の晩年は相手方が被相続人の預金の管理を行っていた。申立人が把握している遺産は、別紙遺産目録記載のとおりであるが、他にも遺産である預金等が存在するものと思われる。
3 申立人が相手方に対し、遺産分割協議を求めたところ、相手方は「自分は長男だし、この家の管理や老後の父の世話もずっと一人でやってきた。遺産は自分が相続するのが当然だ」などと述べ、話し合いをすること自体を拒んでいる。また、預金を含む遺産の全容を明らかにすることも拒んでいる。
4 申立人としては、相手方が父の面倒を見てきたことは事実であるため、遺産分割に際して一定の譲歩はやむを得ないと考えているが、本人同士では話し合いの機会を設けることすら困難であることから、本申立てを行うこととした。
第3. 和解あっせん人・仲裁人として選任を希望する者の氏名等 （希望する場合のみ、3名以内でご記入ください）
・氏名（ ） 資格・所属団体等（弁護士・大阪弁護士会）
・氏名（ ） 資格・所属団体等（ ）
・氏名（ ） 資格・所属団体等（ ）

※ボールペンまたは万年筆で記入して下さい。
※本申立書は相手方に送付します。